



2010年11月25日
PHP研究所発行

トップリーダーが綴る
「元気をもらった一言」

お前ができることをやれ

(株)平成建設 社長
秋元久雄 あきもとひさお

私は高校時代に家が倒産したために大学に進学することができず、自衛隊に入隊することになりました。でも、そこで二つの大きな人生の出逢いがありました。ひとつは自衛隊体育学校監督の故・神谷公夫さんと寝食をともにできたことです。この方は医学部をやめて、お金にも縁のないウエイトリフティング一筋に生きた方で、東京、メキシコ・オリンピックの頃のウエイトリフターなら誰でも知っている名指導者です。天文学、美術、医学等さまざまな分野に造詣が深い方なのに銜てらいもなく、全体を眺めてから部分的な話をされる方でした。選手時代はよく怒られました。なぜかわいがかつてもらい、自衛隊を退職してからも居候をさせていただきました。私の結婚式では仲人をお願いし、人生転機の節々には、必ずアドバイスをいただきました。

特に印象的だったのは、私がある会社に部長として転職するときでした。組織としての知識、経営の知識その他知らないことだらけで不安でした。そのときにこう言われました。「お前ができることをやれ。できることからやれ。できないことは人に任せろ。科学や知識はリレーできるが、人間の能力はそんなに進化していないから安心しろ」。私は、この言葉を聞いて安心しました。それが今日までの支えです。

二人目が東京、メキシコ・オリンピックでウエイトリフティング金メダリストとなった三宅義信選手です。十年以上継続して世界のトップに君臨した三宅選手は、よく才能の人だといわれていますが、四年間一緒に生活してみると、努力の天才であるということがわかりました。このくらい努力する方を、私はいまだに見たことがありません。猛練習は当たり前。私生活、食事、健康、試合、海外生活での体調管理等、すべてにわたって用意周到、当時の私たちや現在のスポーツ選手と比べても努力のレベルが違います。一言では言い尽くせませんが、頂点を極め、そして極め続けるということはこういうことなのか、と驚かされました。まるで今のイチロー選手を見ているようでした。

苦しくなると私はこの二人をよく思い出します。私自身、この二人には到底及ばないまでも、彼らから得たものを人生の座標軸として示していきたいです。